

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	岩田レーベル1Pプロジェクト新築工	階数	地上2階
建設地	愛知県一宮市42-1、38-1、10-1、廃	構造	S造
用途地域	市街化調整区域 指定なし	平均居住人員	110 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,085 時間/年
建物用途	事務所、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年7月 予定	評価の実施日	2017年9月14日
敷地面積	12,495 m ²	作成者	㈱エネ・グリーン寺川幸子
建築面積	3,148 m ²	確認日	2017年9月14日
延床面積	6,953 m ²	確認者	㈱エネ・グリーン定森淳一

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ BEE=1.0

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	92%
③上記+②以外の	92%
④上記+	92%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境 (敷地内): 3
LR1 エネルギー: 3
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.7

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.1

Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 2.3

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.1

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.8

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.2

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.3</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <table border="1"> <tr><td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td><td>34.7 %</td></tr> <tr><td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td><td>0.0 %</td></tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	34.7 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	34.7 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-31 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2.2 耐用性・信頼性、Q-2.3 対応性・更新性
LR-2.2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3.1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

3 対応性・更新性				3.8	0.29		-	3.8
3.1 空間のゆとり				4.6	0.31		-	
1	階高のゆとり		階高4.0~4.8m	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ		壁長さ比=0.20	4.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			生産エリア積載荷重4900以上、食堂・階段2900	4.0	0.31		-	
3.3 設備の更新性		②		3.0	0.38		-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性			3.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性			3.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性			3.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性			3.0	0.22		-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.35		-	2.3
1	生物環境の保全と創出	独自③		2.0	0.30		-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	独自④		2.0	0.40		-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④		3.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-		-	3.0
LR1 エネルギー				-	0.40		-	3.1
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPIm=0.63、BEIm=0.89	5.0	0.15		-	5.0
2	自然エネルギー利用			3.0	0.24		-	3.0
3	設備システムの高効率化			2.5	0.36		-	2.5
4	効率的運用			3.0	0.24		-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-	
4.1	モニタリング			3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制			3.0	0.50		-	
	集合住宅の評価			-	-		-	
4.1	モニタリング			-	-		-	
4.2	運用管理体制			-	-		-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30		-	2.8
1 水資源保護				3.4	0.15		-	3.4
1.1	節水		節水便器、自動水栓採用	4.0	0.40		-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.5	0.63		-	2.5
2.1	材料使用量の削減			2.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	-	3.0	0.20		-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	-	1.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.05		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み	独自		3.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.22		-	3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用		防水プライマー	4.0	0.32		-	
3.2	フロン・ハロンの回避			3.0	0.68		-	
1	消火剤			-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50		-	
3	冷媒			3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	3.2
1 地球温暖化への配慮		①	高効率の設備採用	3.3	0.33		-	3.3
2 地域環境への配慮				3.1	0.33		-	3.1
2.1	大気汚染防止			3.0	0.25		-	
2.2	温熱環境悪化の改善			3.0	0.50		-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減	独自		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	独自	充実した駐車場、駐輪場	4.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		撤出が容易な廃棄スペースあり、工場生産エリア内ゴミ箱設置	4.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33		-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1	騒音	独自		3.0	1.00		-	
2	振動	独自		-	-		-	
3	悪臭			-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40		-	
1	風害の抑制			3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制			3.0	0.70		-	
3	日照障害の抑制			3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のつちらに漏れる光への対策		チェックリストの過半を満たす	5.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

岩田レーベル IPプロジェクト新築工事 工場棟

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.3	0.10	
② 資源の有効活用				2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.8	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.10	外構緑化:34.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
(評価ポイント)				
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 岩田レーベル IPプロジェクト

計画上の配慮事項	
総合	高効率な設備を採用し、省エネルギーに考慮した計画。
Q1 室内環境	開口部遮音性能の高い建具を採用。事務所:業務室の昼光率の確保に努めている。工場:照明のリモコン制御や人感センサーの採用。
Q2 サービス性能	天井高さを高く設定し、快適な空間づくりに努めている。
Q3 室外環境(敷地内)	植栽を多く使用し、外部道路側だけでなく、室内(事務室・食堂・休憩室)からも植栽の彩りを楽しめるような空間を形成している。
LR1 エネルギー	建築物の高い外皮性能。
LR2 資源・マテリアル	節水型便器の採用。
LR3 敷地外環境	駐車場だけでなく、駐輪場・バイク置場を充実させている。環境に考慮した照明計画。
その他	